

【報道関係各位】

2023年7月13日
株式会社ベネッセホールディングス
代表取締役社長 CEO 小林 仁

ベネッセ「ChatGPT の利用に関する意識調査」

小学生「ChatGPT を知っている」2割、うち7割に利用経験

- 利用に肯定的な保護者は約6割、主な理由は「新しい技術の活用力を養う好機となりそう」
- ChatGPT の希望用途1位は、親子ともに「好きなことについて調べる」
- 小学生の約9割が「ChatGPT が書いた文章をそのまま使わないようにすることは大事」

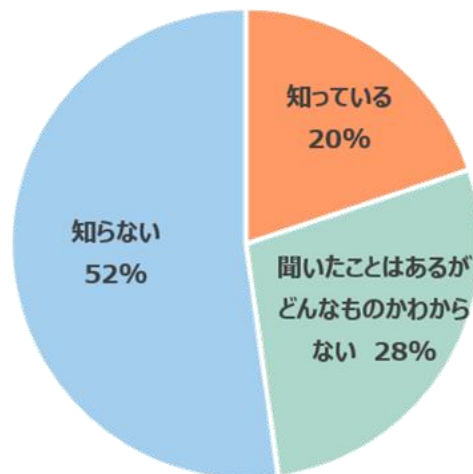
株式会社ベネッセコーポレーション（本社：岡山県岡山市、代表取締役社長：小林 仁）は、全国の小学3年生から小学6年生とその保護者1032組に、ChatGPTの認知、利用経験や今後の利用意向、利用する上で大事だと思うことなどについてアンケート調査を実施しました（※）。ChatGPTを提供するOpenAIから発信されている方針では、利用対象は13歳以上であることが推奨されていますが、実際の小学生とその保護者の利用状況や利用意向を把握することを目的として調査を実施しました。結果は以下のとおりです。

※子どもの回答は、保護者から子どもに質問していただく形式で聴取しています。

■ 小学生の ChatGPT の認知・利用経験

子どもの約2割が ChatGPT を「知っている」

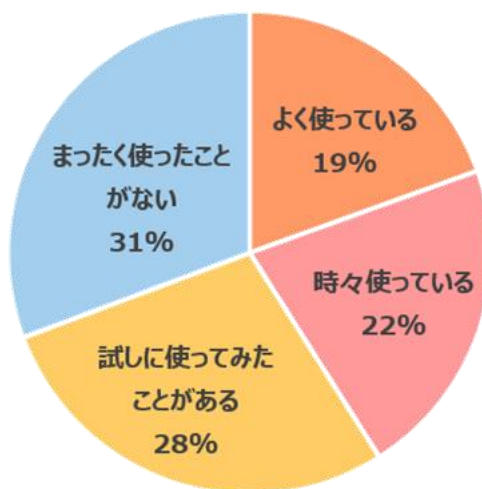
Q.お父さまは ChatGPT について知っていますか N=1032



以降は、ChatGPTを「知っている」と回答した子ども205名と保護者518名に質問対象者を絞っています。

ChatGPT を知っている子どもの約7割に利用経験

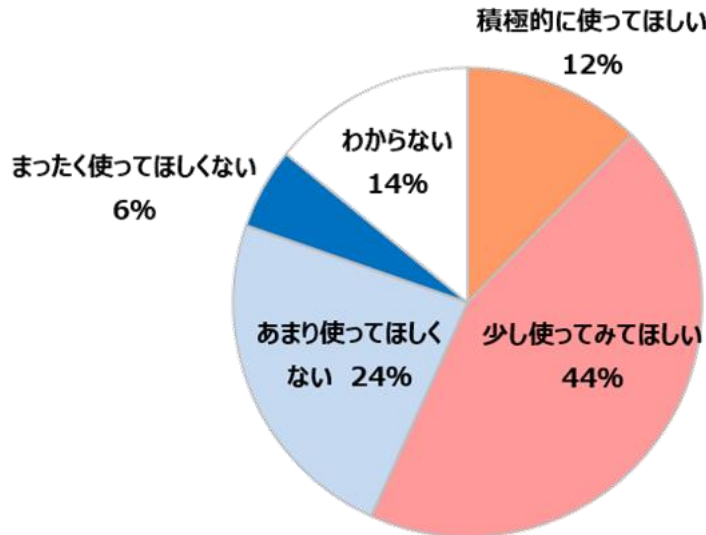
Q.お父さまは ChatGPT をどのくらい使っていますか N=205



■子どもが ChatGPT を利用することに対する保護者の意見

約 6 割の保護者が利用に肯定的（「積極的に使ってほしい」「少し使ってみてほしい」）。否定的な意見（「あまり使ってほしくない」「まったく使ってほしくない」）は約 3 割。

Q. お子さまの ChatGPT の利用についてどう思われますか。もっともお気持ちに合うものをお選びください。 N=518



■子どもが ChatGPT を利用することに対する意見の理由

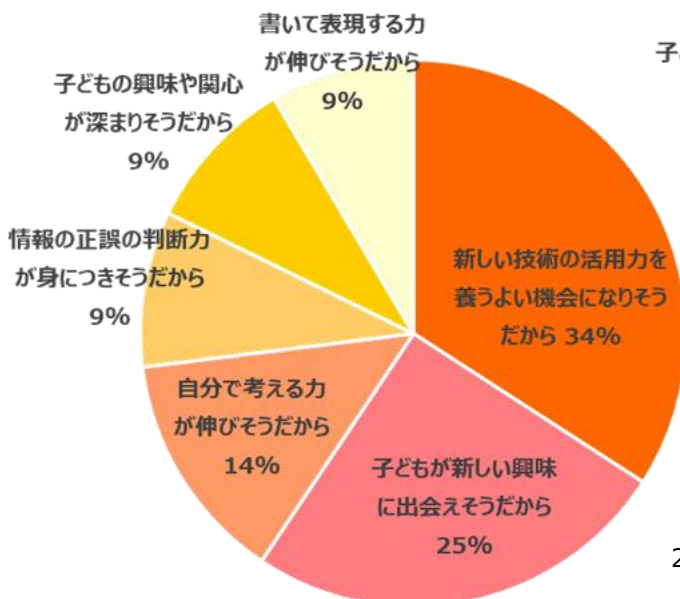
利用に肯定的な（「積極的に使ってほしい」「少し使ってみてほしい」）保護者の意見でもっとも多い理由は「新しい技術の活用力を養うよい機会になりそうだから」。否定的な意見（「あまり使ってほしくない」「まったく使ってほしくない」）の保護者の回答理由でもっとも多いのは「自分で考えなくなりそうだから」。

ChatGPT を「知っている」と回答した保護者 518 名のうち、前問にて今後の ChatGPT の利用に肯定的な回答をした保護者 294 名と、否定的な回答をした保護者 151 名のそれぞれに理由を聞きました。

Q. 前問のご回答の理由として、もっともお気持ちに合うものを選んでください。

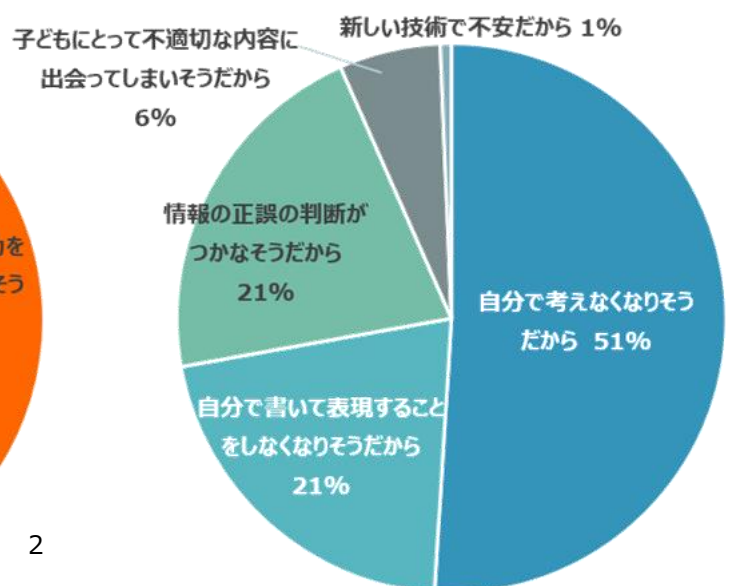
「積極的に使ってほしい」「少し使ってみてほしい」理由

N=294



「あまり使ってほしくない」「まったく使ってほしくない」理由

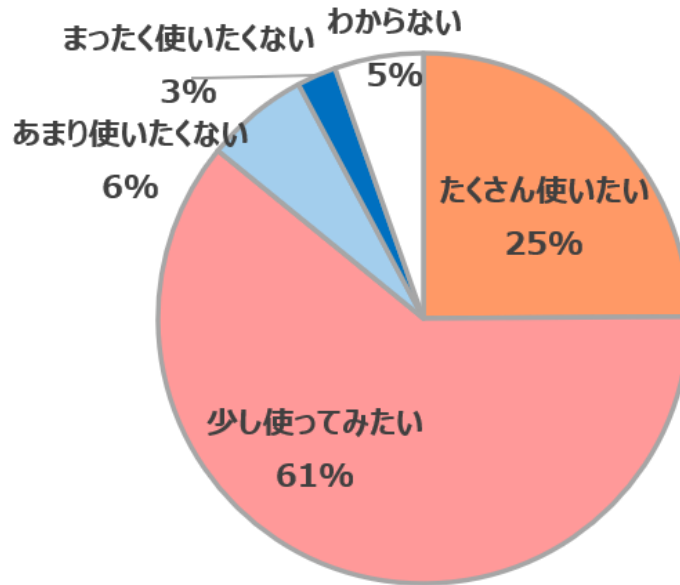
N=151



■子ども自身の ChatGPT の利用意向

約 8 割の子どもが利用に肯定的（「たくさん使いたい」「少し使ってみたい」）。否定的な意見（「あまり使いたくない」「まったく使いたくない」）は約 1 割。

Q. ChatGPT を今後どのくらい使ってみたいですか。もっともお気持ちに合うものをえらんでください。 N = 205

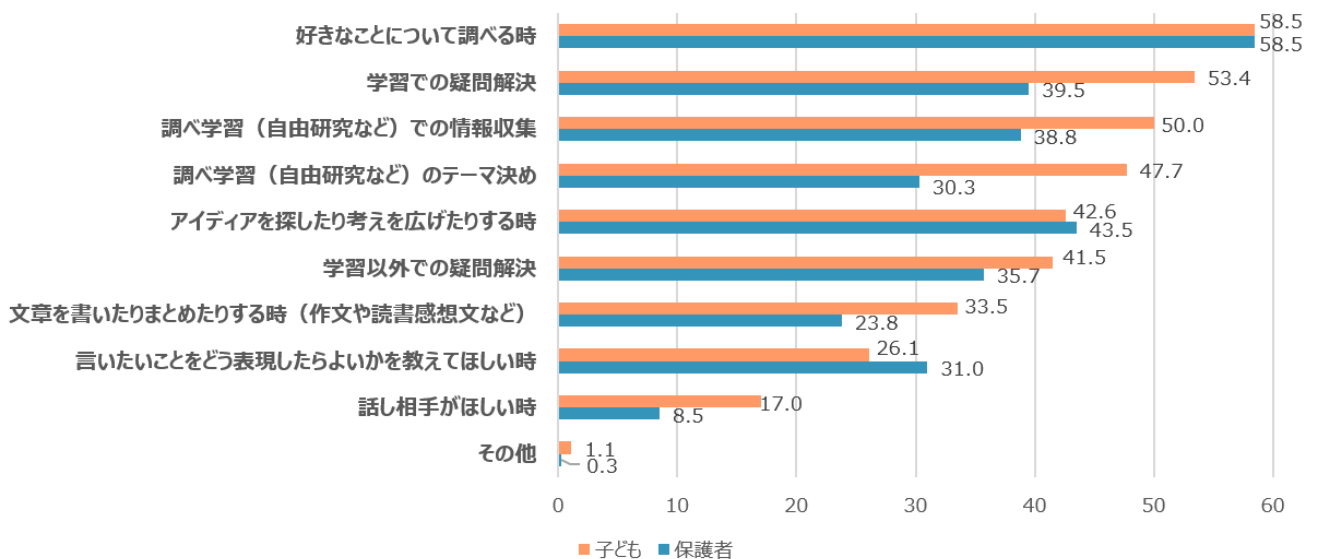


■ChatGPT の希望用途 : ChatGPT の利用希望としてもっとも多いのは、親子ともに「好きなことについて調べる時」

ChatGPT を「知っている」と回答した子ども 205 名と保護者 518 名のうち、前問で今後の ChatGPT 利用に肯定的な意見を持つ子ども 176 名と保護者 294 名に質問対象者を絞っています。

Q.どのような時に ChatGPT を使いたいですか N=176（子） / お子さまに Chat GPT をどのような時に使ってほしいですか N=294（保護者）

ChatGPTをどのような時に使いたいか（子）
子どもに使ってほしいか（保護者）



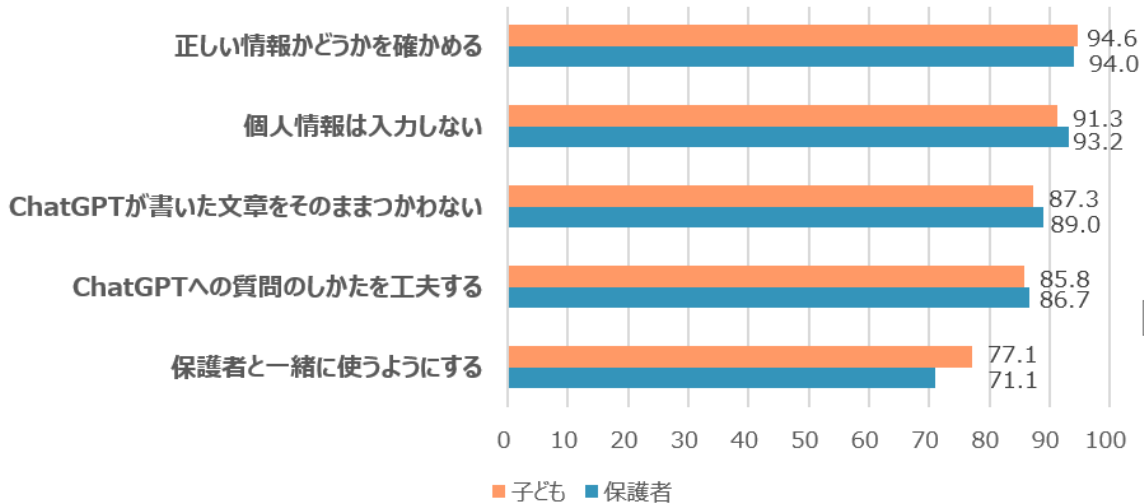
■ ChatGPT を使う時に大事だと思うこと

どの項目も親子で同程度で、中でも「正しい情報かどうかを確かめる」ことを大事だと思うスコアがもっとも高い。

Q. ChatGPT を使う時に、次のことはどのくらい大事だと思いますか。 N = 205 (子) N = 518 (保護者)

選択肢：とても大事/まあ大事/あまり大事ではない/まったく大事ではない/わからない

※グラフは「とても大事だと思う」「まあ大事だと思う」の合計



<調査概要>

調査対象：小学3年生～6年生とその保護者 1,032組

調査期間：2023年6月22日～23日

調査方法：インターネットでのアンケート調査

調査項目：ChatGPTの認知、利用経験や今後の利用意向、利用する上で大事だと思うことなど

【調査の結果を受けて】

NPO 法人 奈良地域の学び推進機構 理事 石川千明

これからの時代を生きる子どもたちにとって、AIは生活や学習において善いパートナーになる可能性があります。AIの正しい使い方、有効な使い方を学び、より良く使いこなしていくことが求められていくでしょう。

「子どもがAIに頼るのはよくない」と表現されていることを見かけますが、AIは頼る相手はなく、自らの思考力や問題解決能力を向上させる手段となると考えています。そのためにもAIに過度に依存せず、自分で情報を分析し、独自の意見やアイデアを生み出せる場所にしていくことが大事でしょう。



広島工業大学 情報学部情報コミュニケーション学科 教授 安藤明伸

AIの技術は、今まさに迎えようとしている Society5.0 という時代の鍵となるテクノロジーです。今後も性能や精度が上がり、未来の生活を変えていくといわれています。中でも教育においては、学習の方法やスタイルを大きく変えていくことが予想されます。

AIが教育現場で活用されるようになると、自分で調べて答えたり考えたりしたことを元に、AIを活用して自分の考え以外のアイデアや多くの視点に気付いたりします。

そして、AIへの質問と回答のやり取りという対話の中で、「どんなふうに質問すればよりよいアイデアを出すためのヒントを得られるか」といった思考力と質問力が問われるようになります。

また、お子さまや親御さんが、既に知っている確実に正確な情報を敢えてAIに聞いてみることで、生成された内容の正確性やAIが何を学習してそう回答しているのか等、AIに対する健全な批判力も育成していくことが大切です。

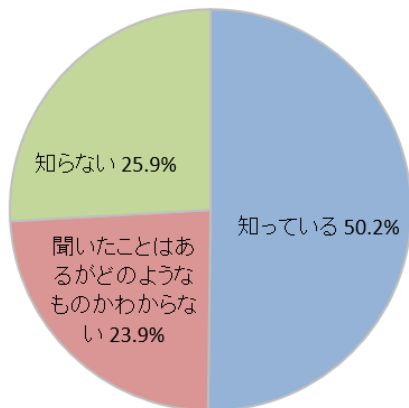
AIを効果的に利用して1人ひとりの力に応じた学習が進むことで、お子さまの未来はさらに広がっていくでしょう。



【その他の調査結果】

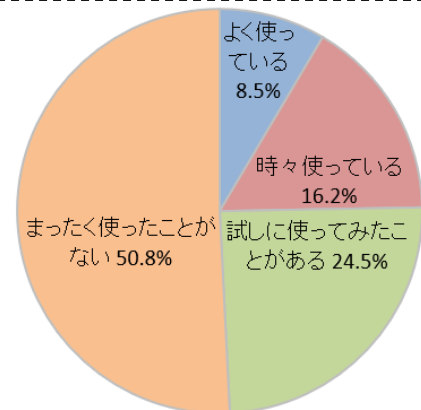
■小学生の保護者の ChatGPT の認知・利用経験

Q.あなたは ChatGPT について知っていますか N = 1032



Q.あなたは ChatGPT をどのくらい使っていますか N = 518

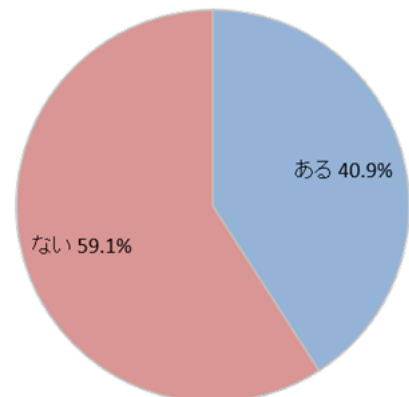
ChatGPT を「知っている」保護者 518 名のみ質問対象者を絞っています。



■ ChatGPT の使い方について保護者と子どもで話したことがあるか

Q.お子さまとの使い方について話したことがありますか。N = 518

ChatGPT を「知っている」保護者 518 名のみ質問対象者を絞っています。



本件に関するお問い合わせ先

株式会社ベネッセホールディングス 広報部 萩澤・宮本・濱野・明日

TEL: 042-357-3658 FAX: 042-389-1757